

第5学年国語科学習指導案

日 時 令和7年11月27日(木)

第5校時 13:30～14:15

対 象 第5学年 30名

授業者 小原 寛経

会 場 2階 5年1組教室

- 1 単元名 CMで学校生活アップ作戦～たがいの立場を明確にして、話し合おう～(6/8時間)
「よりよい学校生活のために」(光村図書 国語)

2 単元の目標

- 情報と情報の関係付けのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。 [知識及び技能] (2) イ
- 思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うことができる。 [知識及び技能] (1) オ
- 目的や意図に応じて、日常生活の中から課題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができる。 [思考力、判断力、表現力] A (1) ア
- ◎互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。 [思考力、判断力、表現力] A (1) オ
- 言葉がもつよさを認識するとともに、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。 [学びに向かう力、人間性]

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使っている。(1) オ ②情報と情報の関係付けのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。(2) イ	①「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討している。A (1) ア ②「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。A (1) オ	①言葉がもつよさを認識するとともに、粘り強く互いの立場や意図を明確にしながら、学習の見通しをもって身の回りの問題を解決するために話し合おうとしている。

4 単元について

(1) 学習指導要領上の位置付け

本単元は、次のとおり学習指導要領の第5学年の内容(1)に基づく。

(1) 話すこと・聞くことの能力を育てるため、次の事項について指導する。

- ア 考えたことや伝えたいことなどから話題を決め、収集した知識や情報を関係付けること。
- イ 目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。
- ウ 共通語と方言との違いを理解し、また、必要に応じて共通語で話すこと。
- エ 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。
- オ 互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。

(2) 教材観

本教材は、普段の授業で文章の読み取りを中心に学んでいる児童にとって、話すこと・聞くことを体系的に学ぶ機会であり、普段の生活の中では意識して取り組むことの少ない内容を扱うため、初めは戸惑いがあるかもしれない。しかし、学校生活の課題やよりよい生活を考える活動と関連させることで、児童自身が「こうしたい」「こうしたらもっとよくなる」という思いをもって取り組むことができる教材である。

そこで、児童の意欲を高めるために、単元の終末には各グループが 30 秒ほどの CM を制作し、発表することをゴールとする。そして、それを学校全体や地域に向けて発信し、実現を目指す活動につなげる。その上で、導入段階では、身近な学校生活の中から困りごとや改善したいことを出し合い、課題を見付ける。そして、「なぜこの意見が選ばれたのか」「どのようにすれば相手に伝わるのか」「どう訴えれば実現につながるのか」といった問いを投げかけることで、児童が目的意識をもって自分の考えをもつ活動や、意見を整理する話し合い活動に主体的に取り組めるようにする。また、児童一人一人の興味・関心の違いを生かした複線型の学習を取り入れ、同じテーマを選んだ少人数グループ(3～4 人)で協働的に話し合いながら取り組むことで、本単元の目標である「自分とは違う立場で考えながら、よりよい意見をつくりあげる力」の育成を図る。

最後は、グループや全体での話し合い活動を行い、相手の意見を聞いて考えを広げ、グループで同意した条件に基づいて、よりよい意見を協働的にまとめていく。そうすることで、話すこと・聞くことが「ただ自分の考えを言うこと」ではなく、相手と関わりながらよりよい考えを生み出す学びであると感じられるようになり、主体的・対話的に学ぼうとする児童の基礎を育むことができると考える。

5 児童について

目指す児童像(高学年)

学びを自ら設計し、他者とともに学びを深めていく子

(1) 児童観

①「あなたは、話し合い活動が好きですか」という質問に対して、「はい」「どちらかといえば、はい」と答えた児童は約 80% であり、活動に好意的な印象を持っていることがわかる。

次に、②「話し合いで自分の考えをはっきり言うことができますか」という質問に対して、児童の 29.2% が「はい」、45.8% が「どちらかといえば、はい」と回答している。つまり、約 75% の児童が、自分の考えをある程度ははっきり言えると感じていることがわかる。一方で、約 4 人に 1 人は、自分の考えをはっきり言うことに不安を感じていた。

また、③「相手の意見を聞いたときに、違いを見つけたり考えを広げたりしようとしていますか」

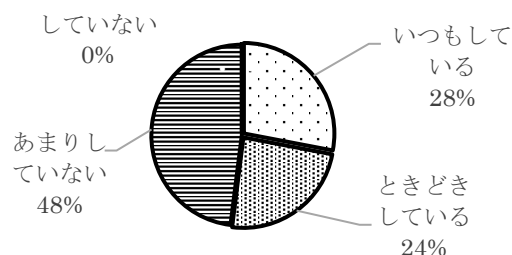
という質問では、28%が「いつもしている」、56%が「ときどきしている」と回答している。つまり、約80%以上の児童が相手の意見を取り入れようと意識していることがわかる。しかし、「あまりしていない」が16%存在しており、相手の意見を聞いても自分の考えを広げることが難しい児童もいることが明らかになった。これは、聞き取りの力や、相手の発言のどこに着目すればよいか分からないことが原因であると考えられる。

以上の①～③までの分析からは、話し合いに前向きな児童が80%近くいる一方で、約20%の児童が不安や苦手意識を持っていることが読み取れる。これまでの学習・生活経験の差や聞き取りの力、相手の発言の着目すべきことを理解する力が弱いと考えられる。

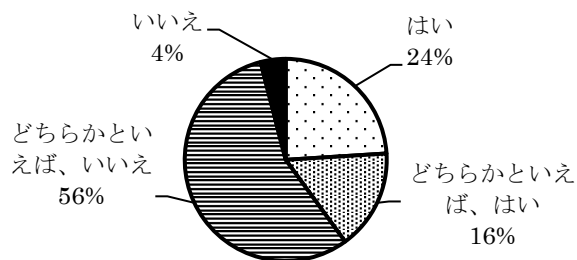
さらに、④「話し合いで相手の意見を『なるほど…』と思ったときに、自分の考えに生かしていますか？」という質問に対して、28%が「いつもしている」、24%が「ときどきしている」と回答している。つまり、相手の意見を自分の考えに生かそうとしている児童が半数にとどまっていることがわかる。また、⑤「あなたは、話し合いで自分の意見と相手の意見を比べて、新しい考えを作ろうとしていますか？」という質問に対して、24%が「はい」、16%が「どちらかといえば、はい」と回答している。しかし、「いいえ」が56%と過半数を占め、自分と相手の意見を比較して、新たな考えを創造することが苦手な児童が多いことが明らかになった。

以上の設問からは、「相手の意見を取り入れること」、「相手との共通点や相違点、関連性を捉えながら、新たな考えを生み出すこと」が難しい児童が多いことが示された。

4. 話し合いで相手の意見を「なるほど」と思った時に、自分の考えに生かしていますか？



5. 話し合いで自分の意見と相手の意見を比べて、新しい考えを作ろうとしていますか？



（２）目指す児童の姿

（１）の実態により、本単元を通して、互いの考えを尊重して話し合い、考えを広げたり深めたりして、よりよい考えを作ろうとする児童を目指す。

6 研究主題に迫るための手だて

（１）想定される課題と手だての明確化

個人間差異	想定される課題	本単元で行う手だて
到達度の違い	話し合いを通して、自分の考えを広げたり深めたりできない児童がいる。	- 話し合いの虎の巻カードを用意し、共通な語彙を使えるようにする。 「話し合いレンジャー」（聞くレッド、話すブルー、広げるイエロー、比べるグリーン、まとめるブラック）を用意し、それぞれの立場を意識した話し合い方を出来るようにする。 - 話し合いのコツ、構えチェックシートを用意し、各自が到達度を振り返ることができるようにする。

興味・関心の 違い	話し合いテーマへの関心 度に差がある	- 身近な課題として受け止めることができるよう、導入段階で、学習、遊び、友達などの柱を立てる。 - CMを作り、発表するという目的をもたせることで学習意欲を高め、維持させる。 - 選択肢を複数用意し、興味関心に合ったテーマを選択させる。
--------------	-----------------------	--

7 単元の指導計画と評価計画（8時間扱い）[: 個別最適な学び : 協働的な学び]

時	◇目標 ○主な活動	◆指導上の留意点 手だて	【評価規準】 〈評価方法〉
1	◇本単元のゴールを知り、議題を検討することができる。 ○これまでの話し合いの様子を振り返る。 ○単元の学習課題を設定して学習計画を立てる。 ○学校生活を振り返って、新たにしてみたいことや解決したい身近な課題を見つけ、話し合う議題を決める。 ○自分の興味・関心のある議題を選び、Formに回答する。	経験共有活動 ◆児童のこれまでの経験を共有させる中で話し合いの意義を自覚させる。 レベルに応じた教材・資料の工夫 ◆学習課題と単元の見通しを板書やワークシートで明確化する。 見本例の提示 ◆多様なCMを見せて、ゴールをイメージしやすくする。 テーマ設定の工夫 経験共有活動 ◆議題設定では、委員会活動やクラブ活動などの例を挙げ、児童の切実感や生活に根ざした課題を選べるよう支援する。	【思・判・表】 ① 〈ワークシート・発言・議題決定表〉
2 	◇自分の選んだ議題について、考えを書き出し、分類したり関係づけたりして、自分の意見をカードにまとめることができる。 ○カードを活用して、現状と問題点、解決方法、理由の3つの観点から自分の考えをまとめる。	レベルに応じた教材・資料の工夫 ◆テンプレートやヒントカードで個別支援し、誰もが到達感をもてるようにする。 多様な意見に触れる機会の設定 ◆タブレット（figjam）を活用し、共有できるようにする。	【知・技】 ① 〈カード〉
3 	◇相手の意見の聞き方や感想の言い方を理解し、グループで話し合い、自分の考えを広げ、まとめることができる。 ○話し合いの仕方を確認する。	レベルに応じた教材・資料の工夫 ◆安心して話せる場づくりと、聞き方・伝え方のフレーズ支援を行う。 多様な意見に触れる機会の設定	【思・判・表】 ② 〈発言・カード記入欄〉

	○グループで意見交流をする。 ○他者の意見を聞いて自分の考えを見直す。 ○考えをまとめる条件を決めて、グループの意見をまとめる。	◆他者意見を取り入れる活動を通して、協働的に考えを深める場面を設定する。 ◆グループの話し合いを見合う活動を通して、客観的に考えられるようにする。	
4	◇話し合い活動で学んだことやよさを理解し、これからに生かすことを考えることができる。 ○話し合いを振り返る。 ○次時で生かしたいことをまとめる。	多様な意見に触れる機会の設定 ◆振り返りカードで個別に書かせた後、ペアや全体共有をして学びを深める。	【態度】① 〈振り返りカード〉
5	学びの個別化・個性化 学習 生活 友達 ◇グループで決まった内容について、CM作りの考えを書き出し、分類したり関係づけたりして、自分の意見をカードにまとめることができる。 ○CMの型（起承転結）に当てはめ、相手に伝わり、説得力をもたせる絵コンテを作成する。	レベルに応じた教材・資料の工夫 ◆テンプレートやヒントカードで個別支援し、誰もが到達感をもてるようにする。	【知・技】 ② 〈カード〉
6 (本時)	◇複数の意見を比較する方法やまとめ方を理解し、よりよい考えをつくることができる。 ○意見の共通点や相違点を比較する。 ○グループでよりよい提案や解決策をCMにまとめる。	多様な意見に触れる機会の設定 ◆考えをまとめる基準（共通点・相違点・優先順位など）を示し、協働的思考を促す。	【思・判・表】③ 〈グループ発表・ワークシート〉
7	◇グループでよりよい提案や解決策をCMにまとめることができる。 ○グループごとに担当を決め、前時でまとめたアイデアをもとに、撮影、編集をする。	見本例の提示 ◆ACジャパンのCMをいつでも閲覧できるようにする。 ◆30秒、起承転結でまとめる型を示す。	【態度】② 〈ワークシート・発言〉
8	◇話し合い活動で学んだことやよさを理解し、これからに生かすことを考えることができる。 ○CMを視聴し、互いに評価する。 ○単元全体を振り返る。 ○これからの学校生活で生かしたいことをまとめる。	多様な意見に触れる機会の設定 ◆振り返りカードで個別に書かせた後、ペアや全体共有をして学びを深める。 ◆見る視点を全体で共有する。	【態度】③ 〈振り返りカード〉

8 本時（全8時間中の第6時）

（1）本時の目標

互いの立場を明確にしながら計画に沿って話し合い、CMの内容について考えを広げたりまとめたりすることができる。

（2）本時の展開 [: 個別最適な学び : 協働的な学び]

学習 形態	○学習内容・学習活動	◆指導上の留意点 【評価】〈評価方法〉 手だて
導入 5分	○第3時での話し合い活動を全体で振り返り、話し合いの観点を再確認する。 - 相手の考えを聞いて、自分の考えを広げる。 - 条件を決めてまとめる。 ○本時の学習のめあてを確かめる。 話し合い活動を通して、CMの内容について考えを広げたりまとめたりしよう。 ○話し合いでの立場、役割を確認する。（司会、記録）	◆話し合いのポイントを拡大掲示しておき、参考にするように促す。
展開 30分 	○他者の意見を聞き、自分の考えを広げる活動をする。 グループで意見交流をし、他者の考えのよさや自分との違い、関連性を整理し、自分の考えを広げる。 A：〇〇さんの意見は理由がはっきりしていてわかりやすいと思いました。 B：うん、具体例も入っていたから、納得できますね。 C：私は別の考えだったけど、〇〇さんの理由を聞いて、自分の意見を少し変えようかと思いました。 A：どんなふうに変えますか？ C：たとえば、掃除道具を大切にというキーワードは一緒だけど、〇〇さんみたいに雑に扱われてほうきが泣いている場面を入れるともっと説得力があると思ったから、付け加えてみたいと思いました。 B：なるほど、それだと大切に使いたいという思いが強くなりますね。 A：CMのどの場面に入れるのがふさわしいか、まとめの話し合いで決めましょう。	多様な意見に触れる機会の設定 ◆各自が資料を示しながら、順番に意見を発表する。相手の意見に対する質問を考える。 ◆感想・気付きを言葉で返すように支援する。 ◆他者の意見を受け止める言い方（「なるほど」「いいと思った」など）を黒板や提示カードで支援する。 ◆自分も活動の一員であるという実感をもたせるために、発表が苦手な児童には、タイムキーパー・記録役など役割を与える。 【思・判・表】② 〈グループ発表・ワークシート〉 他者の考えと比較し、よりよい考えをつくろうとしているか確認する。 【態度】〈発言・ワークシート〉 言葉がもつよさを認識するとともに、互いの立場や意図を明確にしながら、学習の見通しをもち、身の回りの問題を解決するために話し合おうとしているか確認する。

	○考えをまとめる話し合いをする。 ・司会者を中心に、考えを整理したり、決める条件を考えたりして、グループの考えをまとめる活動をする。	
	A：それでは、CMの内容を起承転結の型に当てはめながら決めていきましょう。 B：先ほどのほうきが泣いている場面を承の場面にもってきて、大切に扱っている様子とほうきの笑顔を転の場面にすると思います。 A：どうしてですか。 B：真逆の場面を続けることで、印象が強くなると思ったからです。 C：いいですね。賛成です。最後のキャッチフレーズは、「泣かせないでね私たちを～掃除道具は大切に」でどうでしょう。 A：そうですね。ほうきなどの掃除道具を主人公にして作ることにしましょう。次の時間に、誰がどこを、何を担当するかを決めて作っていきましょう。	
まとめ 10分	○今日の学びを振り返り、次時へのめあてをもうつ。 ・他者の意見を聞いて気づいたこと、自分やグループの考えの広がりや深まりを振り返りカードに書く。 ○振り返りの共有をする。 A：他の人の理由を聞くと、説得力があった。 B：具体例を入れることでわかりやすくなる。 C：比喻を用いることで相手に伝わりやすくなりそう。 D：司会の人話が話をつなげることができていた。 E：考えを比べることで、CMの内容が深まった。	◆今後の活動に活かすために、「他者の意見を聞いて気付いたこと」「自分のグループの考えの広がり」「考えの深まり」の3つの視点で自己を振り返る。 ◆今後の活動に活かすために、他者の意見から次に生かせそうな気づきを中心に聞き取り、振り返りカードに書く。

(3) 本時の評価

評価規準	
他者の意見を聞き、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。【思考・判断・表現】	
本時で想定される児童の具体的な姿	具体的な支援方法
「十分満足できる」 他者の意見のよさを取り入れ、グループの考えを広げたり深めたりして、まとめている。【思・判・表】	・意見をまとめるために、互いの考えを合わせたり、新しい考えを生み出したりして違う考えと折り合いをつけるよう支援する。
「おおむね満足できる」 他者の意見を聞き、自分の考えを一部修正したり、理由を追加したりしている。【思・判・表】	・各自が資料を示しながら、順番に意見を発表。相手の意見に対する質問・感想・気づきを言葉で返すように支援する。

他者の意見を聞いているが、自分の考えに生かすことができない。【思・判・表】

- ・他者の意見を受け止める言い方（「なるほど」「いいと思った」など）を黒板や提示カードで支援する。

ふりかえり

- ・他の人の意見に説得力があった。
- ・具体例を入れるとわかりやすくなる。

・司会の人が上手に話をつないでいた。

〇〇グループ
「キャッチフレーズ」

〇〇グループ
「キャッチフレーズ」

〇〇グループ
「キャッチフレーズ」

〇〇グループ
「キャッチフレーズ」

司会

記録

タイムキーパー

話し合いのリーダー
決める人
まもるグループ
まとめるメンバー

話し合いの観点

④考えを広げたりまとめたりする活動を通して、CMの内容を決めよう。

よりよい学校生活のために